

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業   
  経常事務事業   
  建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連

有   
  無   
 緑化啓発資材無料配布の見直し

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	新築記念樹の配布事業(主要事業)							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	公園緑地担当係長 朝岡正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	緑化	コード	1 2 3
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	緑化推進及び緑地保全	コード	1 2 3 1
					単位施策(小)	種子・苗木の配布	コード	1 2 3 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	新築の住宅を建築・購入された方		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	新築の住宅を建築・購入された方に記念樹を配布し自宅に植えていただくことで、緑化に対する意識や樹木・花に対する管理能力の向上を図る。			
1-5 事務事業の内容	新築の住宅を建築・購入された方に記念樹を無料で配布する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
平成18年度	行政主導での事業には限界があり、地域住民が花や木に興味を持ち緑化に対する意識を高めていく。	緑化の推進は、都市の温暖化を防ぐ重要な役割を担っており、今後もその重要度は増すことが予想される。	生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと思われる。
平成19年度	〃	年々新築家庭が減少傾向になっている昨今、貴重な緑の提供としての役割を担っている。	新築の記念のみならず、環境対策として樹木が注目を集めているため、市民の関心は高い。
平成20年度	新しく住宅を建築された市民に行届くようにPRに努めた。	休日を利用して配布を実施したが、放棄をする市民が増加している。	新しく豊明に新居を構えた記念に樹木の植樹への関心が高い。
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(本/年間)	後期目標値(本/年間)	指標の説明
	新築記念樹の年間配布数(本)	200(本/年間)	200(本/年間)	新築記念として緑化木の苗木を配布し、緑化の推進をはかる。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動実績 a (単位)	154(本)	152(本)	160(本)							
直接事業費 b (千円)	169	159	168							
人件費 c (千円)	804	801	795							
合計コスト d (b+c) (千円)	973	960	963							
単位コスト d/a (千円)	1本当たり6.3	1本当たり6.3	1本当たり6.0	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、苗木を購入する経費等。人件費は係総事業費(3人分)の4割の内10%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(本)	154	152	160							
	後期目標値に対する達成度(%)	77.0	76.0	80.0							

### 3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A	A	C							

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	緑化の推進は都市の温暖化を防ぐためにも非常に重要であり、単発ではなく継続した事業の実施が必要であると認識している。	樹木を配布するだけでなく、より楽しく緑化に関心を持っていただけるよう努めていく。	各家庭が樹木を植え育てていくことが市民の緑化に対する意識や樹木・花に対する管理能力を向上させ、さらには市全体の緑化の推進につながっている。		
平成19年度	〃	年2回配布しているが樹木によっては植樹の時期の問題もあるので随時配布出来よう検討する。	記念樹引渡し時に緑化に関する冊子を配布し、緑化意識の向上、推進を進めている。			
平成20年度	緑化推進には欠かせない事業であるが財政難の折、無料配布は廃止傾向にある。	樹木の受取を放棄する市民を減少する。	〃			
平成21年度						
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

### 4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	D	緑化推進事業として一定の役割を果たしたので廃止する。	
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			